

市公連だより ひろば



特集
公民館の福いいネ!



①



③



②



④



⑤



⑥

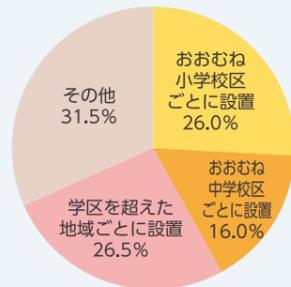
- ① 雅楽体験 (文殊公民館)
- ② 花いっぱい運動 (東藤島公民館)
- ③ トチの木プロジェクト (木田公民館)
- ④ ふるさと宝さがし (国見公民館)
- ⑤ 荒川水質調査 (旭公民館)
- ⑥ 新保ナス料理教室 (啓蒙公民館)



特集 公民館の福いいネ!

公民館は人づくり・つながりづくり

福井市公民館連絡協議会
会長 中村 准



2018年度全国公民館実態調査

福井市の公民館は、社会教育施設としての機能とともに、地域活動やまちづくりの拠点となって、各地区の地域コミュニティを支えています。公民館は全国に約16,000館ありますが、福井市は原則すべての小学校区に公民館があり、それぞれに地域性を活かした多彩な活動を展開しています。また、公民館には、住民による運営審議会が設置されていて、公民館や地区の事業を話し合い、公民館で働く職員の内申を行うなど、地域住民や地区団体と公民館が一体となって、生涯学習と地域づくりを推進しています。

核家族化や生活様式の多様化などにより、地域の日常的なかかわりの機会が少なくなっている中、公民館が地域で果たすべき役割は、人と人のつながりをつくることにあります。

公民館職員が住民の皆さんと一緒に汗をかいてくださったおかげで、地域とともに歩んできた公民館に、たくさんの笑顔が生まれています。

(世帯数・人口は2025年4月1日現在)

春山 公民館

清新な文化と歴史のまち・
学びのまち



世帯数 2,832
人口 5,897



「春山」という名称は福井藩最後の殿様（第16代）松平慶永公がご自分の号の「春嶽」をとって命名された由緒ある名前です。そのため春山地区には独特の気風、誇り、伝統が息づいています。春嶽が登用した有能な藩士の一人が橋本左内です。左内は春山地区に生誕地があり、自分へ宛てた五訓の「御物啓発録」の石碑と産湯の井戸「常盤の井」が残されており、4月11日には「生誕祭」を行っています。公民館には銅像もあります。

宝永 公民館

歴史を守り、
未来を育てるまち 宝永



世帯数 2,073
人口 4,591



城下町である宝永地区は、松平家の別邸「養浩館」を中心に歴史的史跡や数多くの偉人を輩出してきた地区です。これらの大切な遺産を後世に引き継ぐために、公民館が中心となり「宝永歴史カルタ」を作成しました。カルタを通して宝永の歴史を知り、家族や次世代に繋げて行くのを目的としています。このカルタは宝永小学校、夏祭り、公民館まつり、子ども会育成会の行事等で活用され、地区民にとって大変なじみ深いものとなっています。

木田 公民館

えがお×
いごごち×あこがれ



世帯数 5,841
人口 14,061



木田地区は、市の中心部に近く公共交通のアクセスが良い地域であることから、子育て世代を中心に新たな人口の流入が多くなっています。木田地区のテーマは「笑顔（えがお）×居心地（いごごち）×誇り（あこがれ）」。都市化が進展していくなか、住民のつながりや絆を深めることを目的に、お年寄りから子どもまでが笑顔にあふれ、居心地が良く、地区への誇りや憧れが感じられるようなまちを目指して活動しています。

豊 公民館

夢あふれるまち、みのり



世帯数 4,384
人口 9,806



夢あふれるまち、みのり地区では、福井豪雨の記憶を未来へつなぐ「災害メモリアルみのりの灯り」を開催しています。子どもたちが考案した地区の妖精「みのるん」と恐竜の赤ちゃん「みのりゅう」がイルミネーションとなって登場し、防災の意識を楽しく育みます。地域全体で防災を学び合い、命を守る力を高めながら、希望と笑顔に満ちあふれたまちづくりを目指しています。世代を超えてつながる温かな交流が「ふるさとみのり」の地域力を育んでいます。

順化 公民館

歴史の文化・
お堀とともに



世帯数 1,727
人口 3,291



順化地区は福井駅前に近く、再開発で日々変化しています。「福井城址」「お堀」という歴史遺産とともに歩み、地区住民も子どもたちもこの歴史（空襲、地震を含む）を継承しようと、お堀に灯りを浮かべる「福井城址お堀の灯り」を毎年実施しています。また、順化公民館は順化小学校と複合化され、地区住民と子どもたちとの接点が多い環境でもあります。公民館まつりは、順化小学校PTAとの共催でふれあいまつりとして実施しています。

松本 公民館

明るく 楽しく 元気よく



世帯数 5,547
人口 11,335



福井市北部に位置する松本地区は、各種施設が充実しており、誰もが安心して暮らせる環境にあります。かつて県の農事試験場が現在の松本公民館の地にあり、ここで育成され世に出たのがコシヒカリです。加賀口御門等の歴史史跡もあり、松本まつり、大寒願かけ、底喰川ダックレース等の地域行事も盛んで、中心市街地まで徒歩圏内にあることから、生活満足度の高い地域です。

足羽 公民館

明るく住みよい
ASUWA UP!



世帯数 2,510
人口 5,270



足羽地区は、街中にありながら緑豊かな足羽山や足羽川の自然に囲まれ、由緒ある寺社や橋本左内の墓所・愛宕坂・笏谷石など歴史遺産が数多く残っている地域です。また、桜百選に選ばれた足羽河原の満開の桜は春の訪れをつげる足羽の宝でもあります。世代間の交流を深め足羽地区をもっともっと元気にするために、ゆるキャラのデザイン募集を、小中学生を対象に始めています。

湊 公民館

てあい・ふれあい・
学びあい



世帯数 4,284
人口 8,287



福井市中心市街地の西部に位置する湊地区は、東西に貫く「さくら通り」のほかに、足羽川の右岸堤防沿いに「桜のトンネル」と呼ばれる照手・木町さくら並木通りの桜の名所があります。桜の開花時期には夜、この通りを約百基の行燈で照らし、幽玄な世界を醸し出しています。また、ここで毎年4月初めに「越前湊さくら祭」が開かれます。合唱やバンド演奏、ヨサコイ踊りなどが披露され、露店が出店するなど、春の風物詩となっています。

日之出 公民館

“わ”がまちひので



世帯数 3,367
人口 6,959



日之出地区は市の中心部に位置し、公共医療機関や文化施設などにも恵まれているため、子どもからお年寄りまで安心して暮らせる地区です。日之出地区のテーマは、「“わ”がまちひので」です。少子高齢化や人口減少社会が進んでいる中、地域住民のつながりや絆を深め、誰もが気軽に「話」し合いができ、「輪」が広がるまち。「環境に配慮し、安全安心で「和」みがあり、誇りにしたい「我」がまちを目指して活動しています。

旭 公民館

歴史と伝統のまち あさひ



世帯数 2,320
人口 5,006



旭地区は歴史と伝統のあるまちです。多くの偉大な先人を輩出しています。福井県で唯一の総理大臣・岡田啓介、地震学の父・大森房吉、松尾傳蔵、平瀬作五郎、塚原芥山、その他にもたくさんいます。また伝統には、約400年前から火産霊神社で毎年5月に奉納される県指定無形民俗文化財の「馬鹿ばやし」があります。この伝統を引き継いでいくため、旭小学校の児童が旭公民館で「こども馬鹿ばやし」の練習をしています。

日新 公民館

住みよい日新 繋げよう次世代へ

世帯数 2,618
人口 5,423




日新地区は昭和51年に誕生し、令和7年度に創立50周年を迎えました。創立初年度に各地域団体が組織され、区民体育大会、敬老会等も実施されています。また昭和54年に旧公民館が竣工すると、直ちに文化祭や新成人のつどいも行われています。その後も、底喰川清掃美化活動(平成10年開始)、日新さんさんバス(平成24年運行開始)など、より良い地域にしていこうとする取り組みが住民によって熱心に進められている地区です。

清明 公民館

人が育ち、文化がまじわる、多様性と共生の公民館

世帯数 3,204
人口 7,546




清明公民館は、自然との共生を継続しつつ、地域や学校と連携し、多様な住民の自主的な活動を支援しています。外国語絵本の読み聞かせなど、高校生の自由な発想による文化交流や発表機会の創出も積極的に支援。人材育成や多文化とのふれあいを重ね、フラットな関係性を基盤に、持続可能で開かれた地域社会の実現に取り組んでいます。

麻生津 公民館

みんなてつくる・やすらぎと生きがいのあるまち・あそぼう

世帯数 2,889
人口 7,339




麻生津地区は、福井市の南部に位置し、東の文殊山と西の日野川に挟まれた自然豊かな地区であり、白山を開山した泰澄大師の生誕地(泰澄寺)があります。平成9年には県立音楽堂が建設され、「音楽を中心としたまちづくり」に取り組み、吹奏楽団「ハーモニーあそぼうアンサンブル」が結成され、令和7年で結成31年となります。毎年9月には、「観月の夕」が県立音楽堂野外広場で開催され、麻生津小学校の児童が手すきで作った幻想的な行灯が飾られます。

和田 公民館

赤大豆で広がる地域の輪

世帯数 5,067
人口 11,416




和田地区は、足羽川など水利に恵まれ、古来より作物の名産地。令和の特産品として和田まちづくりプロジェクトが取り組んだのが赤大豆の生産でした。国道158号線沿いの「和んだふる農園」という畑で、5月に苗植えし10月には枝豆、12月にはルビーのような大豆が収穫できます。味が濃く栄養価も抜群で、炊き込みご飯はもちろん、喫茶店のスイーツでも提供され、一昨年から和田小学校庭でも栽培を開始。成長の観察学習に活用され、給食にも出されています。

東安居 公民館

人と人が繋がり織りなす 温かい絆のまち ~地域で育む「ひがしあごっこ」の未来~

世帯数 3,077
人口 6,508




東安居地区は、地域の団体やボランティアと連携・協力し、地域の宝である「ひがしあごっこ」を見守り育てています。下市山や足羽川などの自然を生かし、0歳から中高生までの子ども達が、季節ごとの体験や交流会を通じて異世代の人と触れ合い、豊かな人間関係を築いています。地域ぐるみで子どもを育む環境は、地域住民の活躍の場となり、生きがいややりがいを生み、住民同士の交流も盛んです。この「絆」こそが地区の宝です。

社南 公民館

文化薫る公民館の 魅力づくり事業

世帯数 5,424
人口 13,489




従来の公民館まつりに代わり、新たな文化体験を提供しました。「花を楽しむ」では、生け花パフォーマンスを初開催し、目の前で繰り広げられる技と珍しい花材の美しさに来館者は魅了されました。また、「やさしい茶の湯」では季節の和菓子とお茶を楽しみながら、バイオリンの優美な音色に癒されるひと時を提供。五感に響くこれらの体験を通じ、人と地域を結びつける新しい公民館の姿を目指しています。

円山 公民館

育てて、食べて、 笑顔繋ぐ円山リゾット米

世帯数 3,278
人口 8,048




円山地区では、福井県産の「越のリゾット米」を地域の特産にする「円山リゾット米プロジェクト」が進行中です。地域住民と小学生が協力し田植えや稲刈りを通じて食と農への理解を深め、世代間交流を促進しています。収穫されたリゾット米は、地元の方々に振る舞ったり、商品開発や手軽なレシピの試作にも挑戦しています。リゾット米で「育てる人・作る人・食べる人」みんなが笑顔になれるような地域をめざしています。

啓蒙 公民館

ミライにつなげ！ ワクワドキドキする啓蒙へ

世帯数 3,554
人口 7,930




啓蒙地区は市中心部に近く、国道8号線を始めとする主要道路やえちぜん鉄道勝山線が走るなど交通の便に恵まれ、また芝原用水や雑木林の「丸山」など豊かな自然も残る住みよいまちです。地区では、みんなが集い、学び、楽しむ場所の一つとして公民館でいろんな活動をしています。小学生にむけて伝統野菜「新保なす」の継承や、地域に笑いをと地区有志による「ケイモーお笑い一座」の旗揚げなど、様々な年代の方がいつでもワクワクドキドキする講座を開講しています。

社北 公民館

気づいて 築こう 社北

世帯数 3,584
人口 8,311




社北地区は福井市でも有数の歴史あるまちで、足羽山と日野川・足羽川に囲まれ、地域には狐川が流れ豊かな自然にも恵まれています。また、運動公園などの公共施設も多く、とても住みやすいまちです。社北のまちづくりでは、活動を通して住民に、世代を超えた地域の交流を深めること、地域の良さに気付いてもらうこと、地域の問題点に気付いて改善していくことを促進し、笑顔あふれる素敵な社北を築いています。

社西 公民館

育てよう 住みたくなる町 やしろ西

世帯数 2,394
人口 5,531




社西地区は市の中心部からみて南西に位置し、住宅地と日野川流域の広々とした田園地帯が共存する、自然と都市機能が調和した住みやすい地域です。「育てよう 住みたくなる町 やしろ西」という地区のスローガンのもと、住民同士の交流を深めるため、スポーツフェスタ、夏まつり、敬老会、ふれあいまつり(地区の公民館まつり)など地区事業を行っています。

岡保 公民館

水と緑の 「うらがまち岡保」

世帯数 789
人口 2,145




岡保地区では、未来づくり協議会を中心に地域ビジョンの実現に取り組んでいます。各種団体、有志グループの活動を応援することで人々のつながりを深め、住み続けたいまちづくりを目指しています。今年は若いスタッフによる東山アクアスロン大会の復活が楽しみです。その要(縁の下の力持ち)が岡保公民館です。これからも、地区の方々がすばらしい岡保に誇りを持ち、人々の温かい交流がたくさん続くことを心から願っています。

東藤島 公民館

笑顔いっぱい花いっぱいの 東藤島

世帯数 1,328
人口 3,474




東藤島地区は、市の東の玄関口に位置し、九頭竜川や芝原用水、超勝寺や原目重立古墳群など、自然と歴史にあふれた地域です。50年以上前に始まった地区あげの花いっぱい運動が今も受け継がれ、地区民のボランティアが育苗した花苗配布や自治会ごとの花壇づくりなど、花を愛する輪がさらに広がり、全自治会参加の花壇コンクールへと繋がっています。花いっぱい運動で生まれる笑顔は、東藤島の誇りです。